特 集

男性下部尿路症状・前立腺肥大症の特徴と病態

高橋　悟
日本大学医学部泌尿器科学系泌尿器科学分野

Key Words　下部尿路症状，前立腺肥大症，膀胱出口部閉塞，過活動膀胱，低活動膀胱

下部尿路症状（lower urinary tract symptoms；LUTS）は，蓄尿症状，排尿症状，排尿後症状などに分類される。LUTS における性差の主な原因は前立腺の存在である。すなわち，男性下部尿路症状（male LUTS）は蓄尿症状に加え，膀胱出口部閉塞（bladder outlet obstruction；BOO）による排尿症状と排尿後症状からなることが多い。LUTS の種類と程度を適切に把握することは，原因疾患の診断や重症度・治療効果の判定に重要である。その病態には，前立腺肥大症（benign prostatic hyperplasia；BPH）にともなう BOO に加え，BPH 以外の機能性・器質性疾患，BPH による合併症が関与している。

下部尿路症状の特徴

中高年男性が下部尿路症状（lower urinary tract symptoms；LUTS）を有する頻度は高く，加齢にともなって増加する[1)-3)]。男性患者の受診率は女性よりも高く，医療経済上の負担は大きく[4)]，日常生活上の支障も多岐にわたる[5)-7)]。LUTS は自覚的な煩わしさ（bothersomeness）や QOL の低下と密接に関係しており[5)-7)]，疾患重症度，治療選択，治療効果判定における重要な評価項目である。一方，LUTS の疾患特異性は低く，それだけで原因疾患を診断することは困難である。また，LUTS の重症度は必ずしも客観的所見の重症度と相関しない。

LUTS とは，蓄尿と排尿（尿排出）に関連する症状を網羅する用語である。原因としては下部尿路機能障害が示唆されるが，膀胱炎，前立腺炎，尿道炎，膀胱癌，膀胱結石などの器質的疾患でも起こりうる。2002 年の国際禁制学会（International Continence Society；ICS）用語基準で下部尿路機能に関する用語が改訂され，LUTS は，「蓄尿症状

Satoru Takahashi（主任教授）

SAMPLE
Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.